

イスタンブール紀行(その3)

事務局長 池田良穂

イスタンブールの南に広がるマルマラ海に浮かぶプリンスイズ諸島は、9つの島からなる群島で、そのうち4つの島にはイスタンブールのエミノニュ埠頭からのシェヒル・ハッタリ社(元トルキッシュ・マリタイム)の定期フェリーが出ています。北からクナル島、ブルガズ島、ヘイベリ島、ビュユック島ですが、トルコ語のヨミはスペリングの通りの英語読みではないのでなかなか難しく、頭に入ってこないのが困ります。インターネットで調べた同諸島の旅行記に記載の読み方にしましたが、これが妥当かどうかは自信がありません。

さて、乗船したのは在来型の「エミン・クル」で、8時半にエミノニュ港をでて、対岸のコンテナターミナル近くのカドゥキョイ (Kadikoy)で乗客を乗せたあと、一路南に向って航海しました。約20分で最初のクナル島(Kinaliada; 最後の ada が島の意)に到着、その後、15分でブルガズ島(Burgazada)に、さらに15分でヘイベリ島(Heybeliada)に、さらに15分で最終港のビュユック島(Buyukada)のアダラル(Adalar)港に到着しました。イスタンブールのエミノニュ埠頭から約1時間半の航海です。

途中の島の港では、乗客の乗下船が終わるとすぐに出港ですが、最終港のアダラル港では25分ほど停泊しますので、同じ船で折り返しても、港の周りを少し散策することができます。どの島も別荘のような建物が立ち並び、港の近くには魚介類レストランが並んでいます。

乗船した乗客も、ほとんどが荷物なしだったので、イスタンブールの居住者で、島で食事をしたり、散策したりして楽しむのでしょう。夏は海水浴客が多いと聞きました。またエミノニュ埠頭からの定期船だけでなく、イスタンブールの他港や沿岸各地の港からも船がでているようで、島の港ではたくさんの小型旅客船と出会いました。

最終港のアダラル港で、次の便を待つと3時間滞在することになるので、同じ船で帰ることにしました。それは、この航海の途中で、イスタンブールのIDOのフェリーターミナルが遠望できて、2隻の高速カーフェリーの姿が確認でき、さらにちょっと変わった外観のフェリーとして注目していた船が航行するのが遠くにうっすらと見えたので、ぜひともイスタンブールの同ターミナルにいきたいと思ったからです。

さてアダラル港の周辺を散策すると、屋台村のような魚介レストランが軒を並べて何軒もありました。朝の10時過ぎだったので準備中の店が多かったですが。

航海の途中でちょっと珍しい体験もしました。それは帰りの寄港地で遭遇したもので、岸壁に救急車がきており、やがて対岸の方向から高速の救急船がやってきて、急患らしき人を乗せて陸上に向けて疾走していきました。離島の暮らしで、一番の問題点が急病とききますが、プリンスイズ諸島には立派な救急船がいました。

こうして約3時間のアイランドホッピングの旅を終えました。次回は、IDOフェリーのターミナルの紹介をします。



エミヌキュ岸壁の待合室から乗船するフェリー「エミン・クル」が近づいてくるのが見えました。



カドウキョイ港で乗船を待つ人も相当な数でした。



遠くにイエニカブ港の IDO 社の高速カーフェリーの姿がかすかに見えました。



IDO 社のカーフェリーの姿が遠目に見えました。



最初のクナル島の全景です。



クナル島の岸壁です。防波堤もなく、海に突き出した岸壁の先端に横付けします。伊豆諸島の港に近いかも。



ブルガス島が見えてきました。前を走っているのは島間フェリーのようです。



ブルガス島の手前で先を行っていた島間フェリーを追い抜きました。



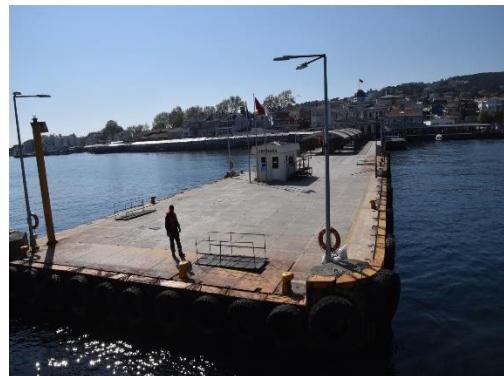
ブルガズ島の埠頭に到着直前の写真です。



4 島目のビュユック島の全景です。群島の中では最も大きな島です。



港の周辺にはレストランが並んでいます。



ビュユック島のアダラル港の岸壁です。



ヘイベリ島の岸壁です。



海岸沿いにテント張りの屋台風の魚介類レストランが長く並んでいました。



港の横には海軍学校らしき建物があり、銃を携えた兵士が警備をしていました。



岸壁先端に着岸している「エミ・クル」。この船で4 島めぐりをしました。



アダラル港にはたくさんの旅客船が出入港していました。



帰りに2隻の僚船と反航しました。



救急船で病人の搬送が行われていました。



ビュユック島のアダラル港にやってきていた旅客船群です。イスタンブールからだけでなく、沿岸都市からたくさん航路があるようです。

大都会の近くの離島とはいえ、これだけたくさんの観光客が訪れているのは驚きでした。